

て、湿原植生が荒廃などの影響を受けているため、昭和41年度より群馬県教育委員会とともに保護増殖事業を実施している。

(1) 現地作業 5月15日～10月15日

(2) 内容

- 湿原植物などの保護と復元に関する調査研究
- 種播および移植などによる湿原植物の増殖
- 帰化植物の除去および入山者の啓蒙指導
- 保護柵および注意札の設置

(3) 保護指導委員 (保護調査会員)

馬場 篤、蜂谷 剛、椋村利道、吉岡邦二、樋口利雄、橘ヒサ子、星 一彰

(4) 保護管理員

橘京一(尾瀬原担当) 星武則(尾瀬沼担当)

6. 文化財の普及・公開

(1) 北海道、東北ブロック民俗芸能大会

① ねらい

すぐれた民俗芸能を公開し、一般の理解と認識を深めるとともに、研究協議を行い保護の推進をはかった。

② 期 日

昭和48年9月9日(日)

③ 場 所

仙台市宮城県民会館

④ 出演公演 団体

御宝殿熊野神社の田楽と獅子舞

⑤ 観覧者 約 2,000名

(2) 県民俗芸能大会

① ねらい

県内に遺存する民俗芸能の公開を通じて、一般の理解と認識を深めるとともに研究協議を行い、保護の推進を図った。

② 期 日

昭和48年11月4日(日)

③ 場 所

会津高田町中央公民館

④ 出場団体

相馬の民謡と踊り (相馬市)

佐布川の早乙女踊り (会津高田町)

大波住吉神社の鬼舞 (福島市)

伊佐須美神社の太々神楽 (会津高田町)

古寺山自奉楽 (須賀川市)

小松彼岸獅子舞 (北会津村)

牛沢甚句 (会津坂下町)

⑤ 観覧者

約 1,000名 満員なので入場を制限した。

(3) 文化財団研修バス

① 目的

県民が直接文化財に接して理解を深め、保存、活用の推進を図る。

② 内容

各教育事務所が主催し、研修生50名を募りバス1台を運行する。

③ 対象

市町村文化財調査員を主体とし、市町村教育委員一般人を含める。

④ 講師

菊地貴晴、田中正能、木田 一、鈴木重美、山口孝平

⑤ 期日・見学先

県北 9月3日 会津 願成寺ほか

県中 10月5日 〃 恵日寺ほか

県南 9月27日 いわき 恵日寺ほか

会津 9月28日 県中・県南 如宝寺ほか

南会津 10月22日 会津 松平氏庭園ほか

相双 9月7日 いわき 薬王寺ほか

いわき 9月9日 県中・県南 開成館ほか

⑥ 記録

「文化財研修バス実施記録」として報告書を刊行した。

(4) 文化財指導者講習会

文化財に関する知識の普及と愛護精神の高揚を図るため、文化財保護について指導的立場にある関係者の参集を求めて、文化財に関する専門的事項について講習を行い、市町村における文化財保護行政の進展を図った。

① 期 日

昭和48年9月12日(休)、13日(休)

② 会 場

福島県文化センター

③ 参加者

文化財保護行政を担当する市町村職員、市町村の文化財調査委員またはこれに準ずる者、小・中・高等学校の教職員、文化財保存団体の関係者 176名

④ 講習内容

ア 専門講義

「仏像彫刻と納入品について」

文化庁文化財鑑査官 倉田文作

「東日本寺院跡について」

早稲田大学教授 滝口 宏

イ 講 義

「民俗資料の収集と保存について」

四倉公民館長 和田文夫

「市町村の文化財保護行政の実際について」

県教育庁文化課 今野栄八

ウ 研究協議

「開発にともない文化財の保護をどうしたらよいか」

事例発表 いわき市教育委員会 渡辺徳宝

只見町教育委員会 目黒吉助

助言者 滝口 宏、和田文夫、渡辺一雄

「市町村の文化財保護行政の進展をはかるにはどうしたらよいか」

事例発表 石川町教育委員会 高木茂昌

鹿島町教育委員会 青田光司

助言者 高木 豊、鈴木 啓、目黒吉明

エ 臨地指導

県指定史跡湯野西原廃寺跡、史跡下鳥渡供養石塔、重文木造釈迦如来座像(陽泉寺)、重文木造千手観音立像(大蔵寺)